

エコアクション21 環境経営レポート

(対象期間:2023年4月1日~2024年3月31日)



東京特殊車体株式会社
2024年 9月 17日



目 次

1. 組織の概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 環境活動の実施体制	4
4. 過去3年間の環境負荷の状況	5
5. 環境経営目標(中期3ヶ年計画)	7
6. 今年度の環境経営目標と実績、次年度の取り組み	8
7. 次年度の環境目標と環境活動計画	10
8. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等 の有無	10
9. 代表者による評価および見直し	10

1. 組織の概要

1. 事業所名

東京特殊車体株式会社

2. 代表者氏名

代表取締役 西岡 健久

3. 所在地

〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1

4. 環境管理責任者

総務部長 大川 晶

連絡先 : TEL : 042-644-3517 E-Mail : akira.okawa.tsc1@toutoku.co.jp

5. 事業の規模

資本金 : 40,000 千円

年商額 : 2,485 百万円(2023 年度実績)

主要品生産量 : その他製造業 (特種車両の製造 : 75 両 (2023 年度実績))

従業員数 : 66 名 (2024.3.31 時点)

延床面積 : 6,084 m²

敷地面積 : 9,312 m²

6. 事業活動の内容

各種特種車両の設計・製造販売・修理

7. その他

設立年月日 : 1967 年 2 月 10 日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 東京特殊車体株式会社

関連事業所 : なし

登録対象外 : なし

活動 : 各種特種車両の設計・製造販売・修理

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
 - (3) 節水の実践
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
2. 環境経営を継続して改善するため、全社員参加の改善活動である「ONE1019（ワントウトク）」の中で具体的な環境経営目標を策定し、取り組みを行います。また、環境経営目標は定期的に、あるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境経営レポートとして公表します。

制定 2017年4月1日
改訂 2023年4月5日

東京特殊車体株式会社
代表取締役 西岡 偉久

《参考》系列グループの理念および環境基本方針

「京王グループ理念」

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

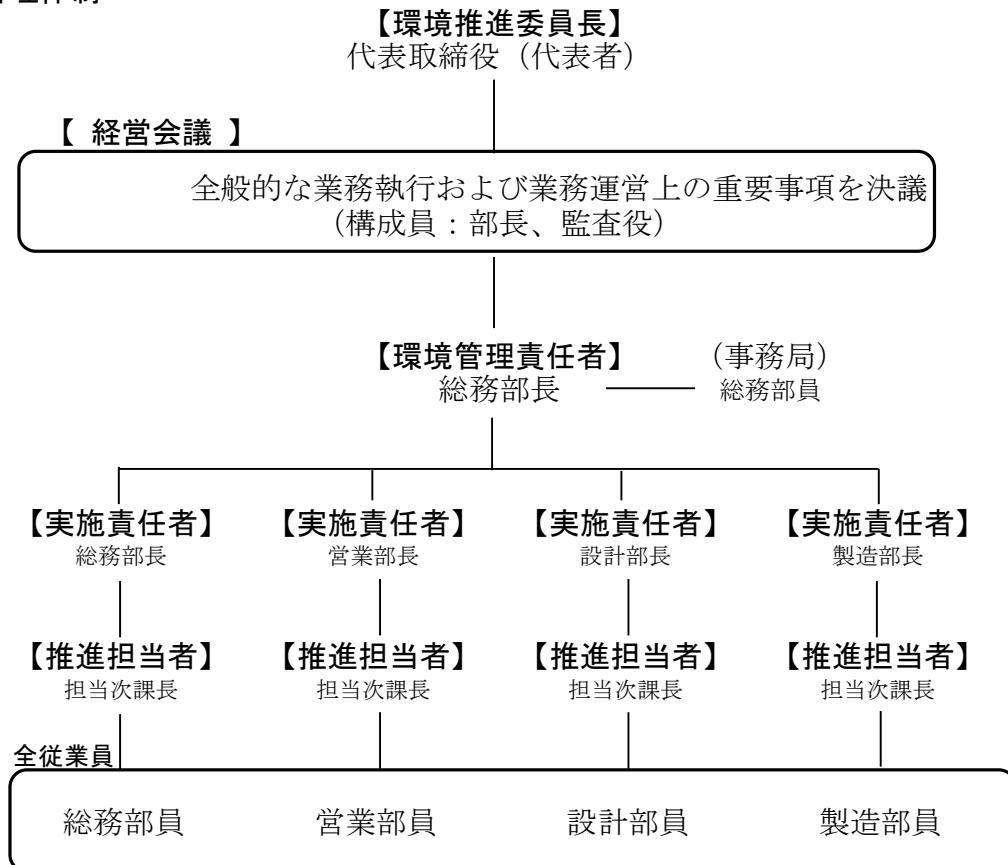
「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全環境を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。

3. 東京特殊車体(株)環境管理体制及び役割

1. 管理体制



2. 役割分担

名称	役割・責任
環境推進委員長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動全般の推進 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境管理責任者の任命 ・環境活動の評価、見直し(年1回) ・環境経営方針の作成 ・経営資源の確保
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の構築、運用 ・各種会議体の開催 ・代表者への報告 ・事務局運営 ・取組み状況の確認と改善 ・外部からの苦情の窓口
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境責任者、運営のサポート ・環境経営レポートの作成 ・各種データの取得、記録 ・啓蒙活動の推進
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・各部門の統括 ・推進担当者のフォロー ・活動計画実施状況の監督
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の実務推進 ・取組みに対する意見の集約、具申 ・環境活動の実施状況の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚 ・環境活動への参加、環境経営計画の実行

4. 過去3年間の環境負荷の状況

環境への負荷(指標及び種類)			単位	2021年度	2022年度	2023年度
				2021.4-2022.3	2022.4-2023.3	2023.4-2024.3
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		t-CO ₂	307.7	267.9	268.5
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	t	57	52	58
		焼却処理	t	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	t	34	33	30
③-1 総排水量	下水道		m ³	829	768	1,013
③-2 水使用量	上水		m ³	472	307	485
	地下水		m ³	535	547	744
④ 化学物質使用量	PRTR		kg	1,748	799	2,178
	都管理物質		kg	2,753	1,227	3,675
	総排出量		kg	3,182	1,390	4,156
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	4,438,136	3,381,116	3,986,146
	化石燃料		MJ	1,843,765	1,547,208	1,547,832
⑥ 物質使用量	資源使用量		t	376.2	218.6	287.9
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質量等	利用された物質量		—	対象なし	対象なし	対象なし
	水の利用量		—	対象なし	対象なし	対象なし
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)		台	98	49	75

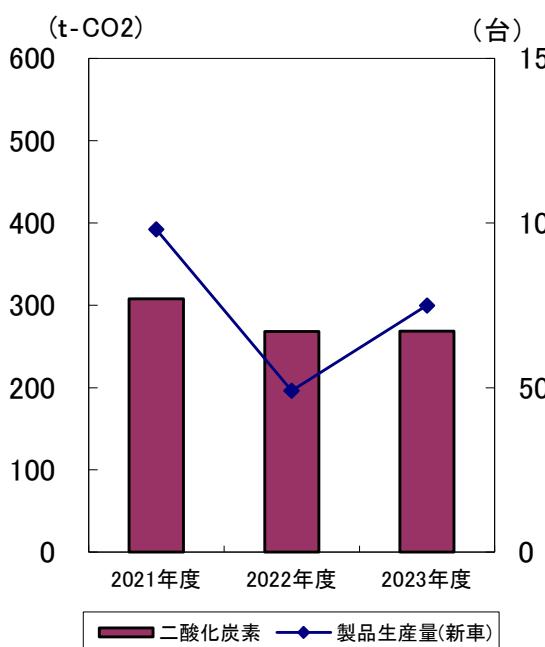
※CO₂排出量の計算に使用した電気のCO₂排出係数は

2014年度までは 0.377kg-CO₂/kWh

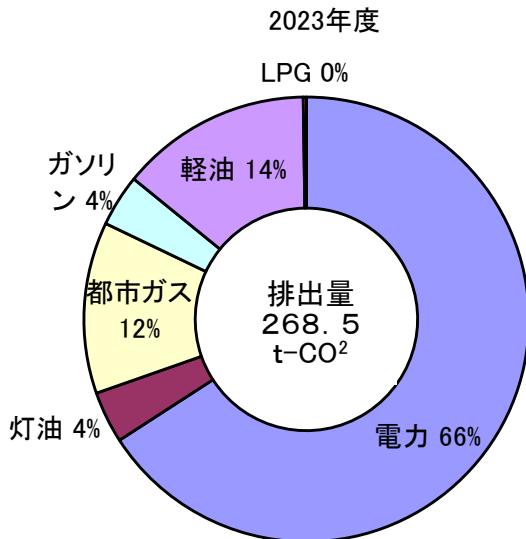
2015年度からは 0.382kg-CO₂/kWh、

2021年度からは 0.441kg-CO₂/kWhで算出しています（上表のCO₂過年度分は再計算）

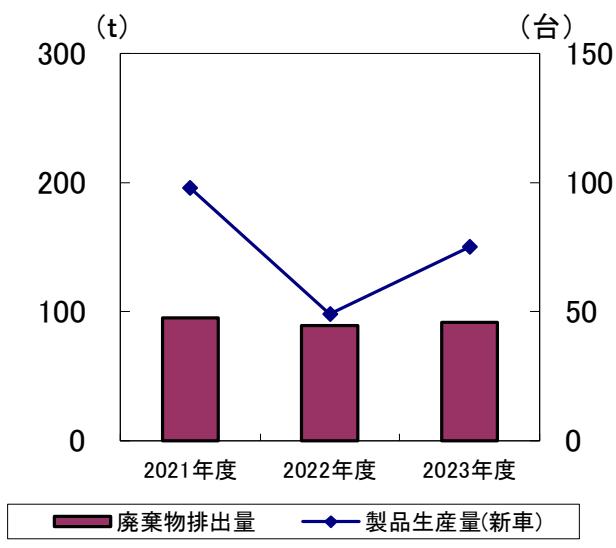
二酸化炭素排出量と生産量



二酸化炭素排出量割合 2023年度

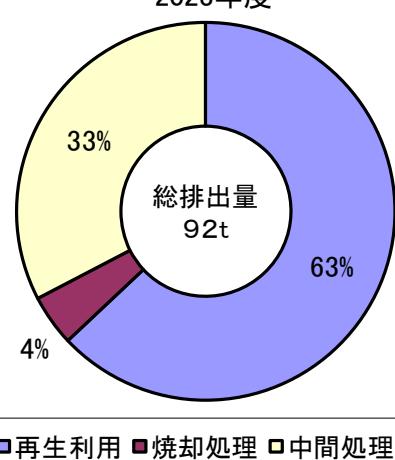


廃棄物排出量

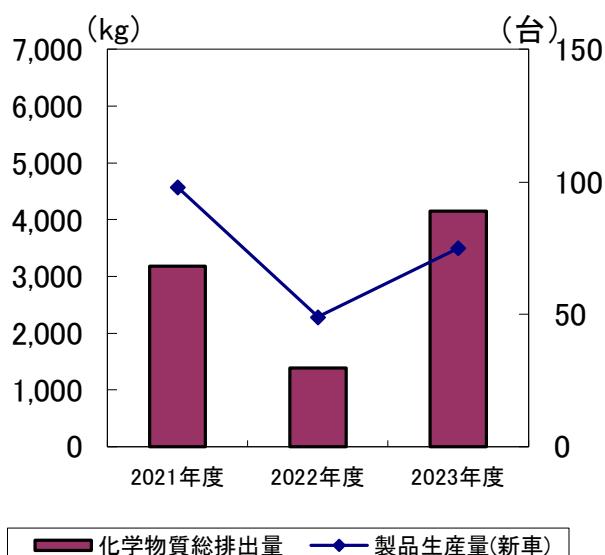


廃棄物排出量割合

2023年度

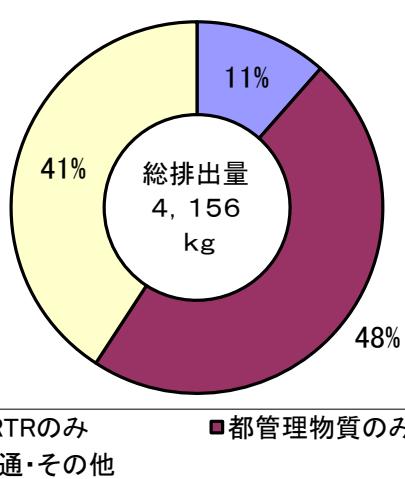


化学物質使用量

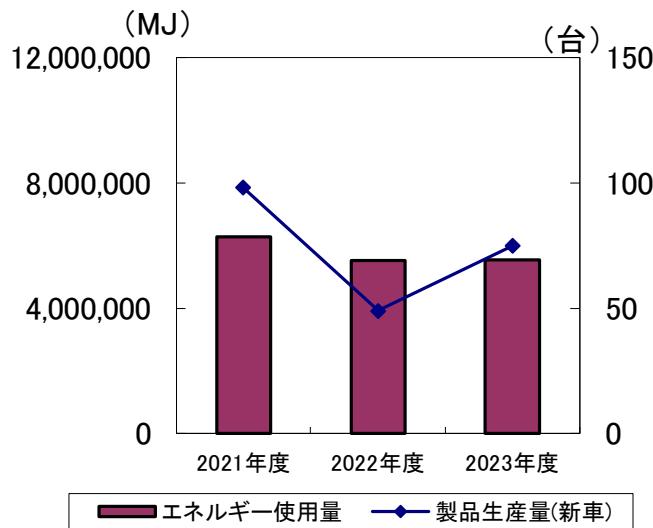


化学物質排出量割合

2023年度

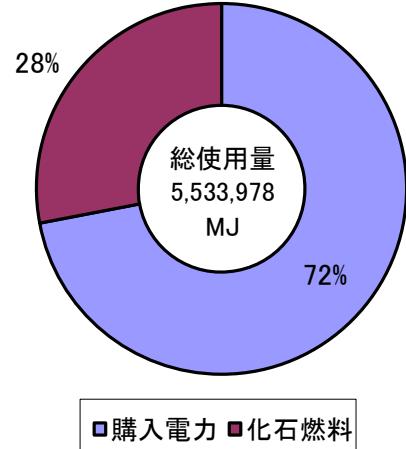


エネルギー使用量



エネルギー使用量の割合

2023年度



5. 環境目標(中期3カ年計画) 2021年度～2023年度

2021年4月 制定

環境中期目標の主要項目

2022年4月 改訂

重 点 施 策	目 的	環境目標				
		基準年 (2019年度)	2021年度	2022年度	2023年度	
1 環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	340.4	337.0	333.6	330.3
		使用電気量削減 (kWh)	501,087	496,077	491,117	486,206
		都市ガス使用量削減 (Nm ³)	20,134	19,933	19,734	19,537
		灯油使用量削減 (℥)	4,710	4,663	4,617	4,571
		水使用量削減 (m ³)	1,348	1,335	1,322	1,309
		化学物質使用量の削減 (kg)	2,815	2,787	2,760	2,733
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する産業廃棄物排出量の削減 (kg)	43,090	42,660	42,234	41,812
2 環境取組への取組の推進・向上	2.1 環境経営システムの有効性向上 (教育)	品質システムとの連携による活動の日常化	—	品質システム (One1019活動)との連携による環境活動の日常化・定着	品質システム (One1019活動)との連携による環境活動の日常化・定着	品質システム (One1019活動)との連携による環境活動の日常化・定着
	2.2 環境コミュニケーションの実施	工場周辺の美観維持	—	工場周辺の定期的な清掃活動	工場周辺の定期的な清掃活動	工場周辺の定期的な清掃活動
	2.3 その他	日本自動車車体工業会 (JABIA) の環境活動への参加	—	重金属4物質フリー宣言の継続 新環境基準適合ラベルの維持	重金属4物質フリー宣言の継続 新環境基準適合ラベルの維持	重金属4物質フリー宣言の継続 新環境基準適合ラベルの維持

※ 電力の CO₂ 排出係数は 0.441 kg-CO₂/kWh (2020年度東京電力) です

※ 基準年度は、新型コロナウイルスの影響が大きかった 2020 年度を除く直近の年度としています

※ 2021～2023 年度の削減率は基準年から年 1 % 削減です

6. 環境経営目標(環境活動計画)と実績

6.1 2023年度の実績 環境負荷の削減

各削減項目は2019年の実績値から年毎1%の削減を目標としています。これは2020および2021年度はコロナによる影響が強く、また2022年度には製造車両の基となる車両の入場に困難があったためです。

環境活動は個別の活動のほか、エコアクション21の環境活動を全社的な品質改善活動である「One1019（ワントウトク）」活動と併せて行う実施体制としています。

削減項目	目標	実績	対目標	評価
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	330	269	81%	○
使用電気量 (kWh)	486,206	399,814	82%	
都市ガス使用量 (Nm ³)	19,537	15,434	79%	
灯油使用量 (L)	4,571	4,040	88%	
水使用量 (m ³)	1,309	1,229	94%	○
化学物質使用量 (kg)	2,733	4,156	152%	×
廃棄物 (kg)	41,812	30,170	72%	○

※電気のCO₂排出係数は 0.441Kg-CO₂/kWh (2020年度東京電力排出係数) で計算しています

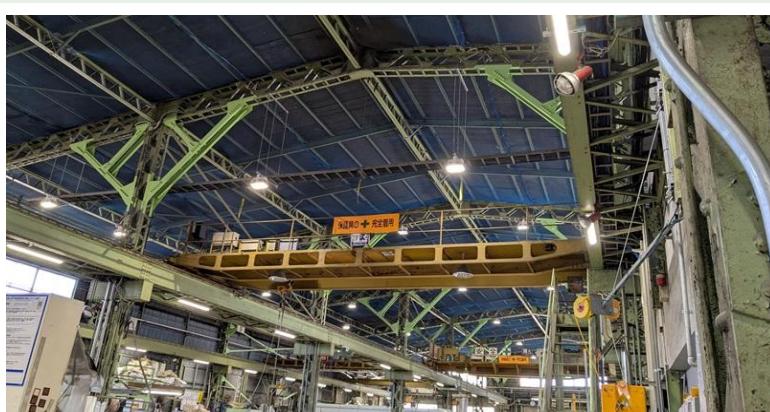
※都市ガスの使用量は標準状態 (Nm³) とするため、使用量 (m³) × 0.967で計算しています

※軽油は弊社製品（特殊車両）の燃料タンクへの給油が使用量の大部分を占めるため、上表に記載をしておりません

CO₂排出量の削減活動

CO₂排出量では、電力消費量が65%と大半を占めるため、電力消費量の削減に取組んでいます。

取組み内容	取組み内容	実施状況	評価と次年度の取組み
電気使用量の削減	・工場高天井の不要な照明をこまめに消灯する	○	基準年度に対して製造車両数が約85%と少ないため、排出量の大幅な削減を達成しています。
	・工場、事務所の照明を昼休みに消灯する	○	電力消費量のうち工場高天井の照明が消費に大きな影響を与えるため、その適切な使用を推進する事に力を入れています。
	・エアコンの推奨温度（努力目標 夏季26度 冬季20°C）を表示し、電力消費量の削減を推進する	○	また、製造車両数で割るような単純な指標ですが、基準年の3.8に対して3.58と減少が見られるため、活動の成果は確かにあります。
	・本工場使用電力量の管理 当月最大電力量317kWh以下を目標とする	○	しかしながら、上記の単純な指標では状況を正しく表しているとは言えず活動の有効性が分りにくいため、適切な指標の設定を目標としています。 次年度も、この活動を継続し、より効率よく電力の使用ができるように取組みます。



工場高天井 照明の様子



8 電灯の区域別個別SW化により、不要な区域で消灯を行い、電力使用量の削減しています

廃棄物排出量の削減活動

取組み内容	取組み内容	実施状況	評価と次年度の取組み
廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量の削減活動 <ul style="list-style-type: none"> 定期的な廃棄物のコンテナ内確認・整理活動を行う 上記で確認した廃棄物のうち、分解によりリサイクルに回せる有価物がある場合、その分解を行う 	○	定期的に廃棄物を確認し、分解できる廃棄物は積極的に分解を行い、有価物を分離する活動や、全社活動のOne1019活動内で、廃棄物分別の啓蒙活動や廃棄用BOXの拡充が行われ、廃棄物の削減に有効であったと考えている。
	廃棄物分別および排出方法の見直し <ul style="list-style-type: none"> 廃棄方法の図示と廃棄BOXの拡充 (One1019活動) 	○	次年度も、社員全員の意識をより高め、廃棄物の分別と分解を進める取組みます。



廃棄物の分解作業。分解により、リサイクルに回せる有価物を分別しています。

また、性状の表示があり、判別のつくプラスチック類も分解して分別回収を開始しています。



水使用量の削減活動、化学物質使用量の削減活動

取組み内容	取組み内容	実施状況	評価と次年度の取組み
水使用量の削減	水使用量の把握と管理 <ul style="list-style-type: none"> 水の無駄な使用をしない様に、ラベル貼付活動の維持 (社員意識向上) 	○	製造活動に多量の水を使用する工程はありませんが、夏季の猛暑による散水などが増えています。 節水の呼びかけや掲示による啓蒙活動と、蛇口の修繕などの活動を実施し、社員の意識の向上は見られると考えています。 次年度も、上記の取組みを実施し、さらなる社員の意識向上を狙っていきます。
化学物質使用量の削減	製作車両の塗装必要箇所の見直し (One1019活動) <ul style="list-style-type: none"> 車両ビスのタッチアップの削減 シーリング材料の見直しによる塗装の削減 	△	化学物質の使用量は、塗料がそのほとんどを占めます。顧客の要望により製作車両の塗料の種類がばらついた場合、総量が増える傾向があります。このため、こまめな使用量の削減活動を行い成果を得ていますが、総量としては効果が低い状況です。 使用量の把握は順調に行われているため、これらの情報を合わせ、他の削減手段を模索する必要を感じています。
	化学物質使用量の把握 (PRTR、東京都適正管理化学物質等)	○	次年度も上記の活動を継続していきながら、他の削減方法を模索していきます。



6.2 2023年度 環境への取組

環境教育については、全社員が集まるOne1019活動における活動の共有化と、社長からのコメントにより理解を深めています。また、毎月行う工場周辺の清掃活動を通じ、地域環境を良好に保っています。

製品の環境性能の向上については、業界団体の取組と歩調を合わせ、今後とも向上をはかっていきます。

分類	目的	環境活動計画	実施状況	評価と次年度の取組み
2.1 環境経営システムの有効性向上（教育）	品質システムとの連携による活動の日常化	One1019活動および報告会（トップマネジメント社長レビュー）	○	繁忙期に入るまで、毎月取組みと報告会が行われ、その場で取組みに対する社長レビューが行われた。社長からのコメントがその場で入り、社員の意識向上に有効だった。 次年度も同様な社長が出席し、報告、意見および指示を直接聞く事の出来る活動で、同様の教育に取組んでいく。
2.2 環境コミュニケーション	地域住民との交流 外部情報の活用	・定期的な工場周辺清掃活動を実施	○	毎月1および16日に、定期活動として工場正門周辺清掃を実施した。 そのほか随時工場周辺の美化清掃を行い、周辺環境の維持に努めた。 次年度も、上記の取組みを行っていく。
2.3 製品の環境性能の向上に関する目標	業界団体の環境活動への参加	・一社) 日本自動車車体工業会 (JABIA) 重金属4物質フリー宣言活動（鉛、水銀、六価クロム、カドミウムに対する目標） ・新環境基準適合ラベルの維持	○	所属する業界団体であるJABIAの重金属4物質フリー宣言の継続と、新環境基準適合ラベルの維持を継続して行った。 次年度も上記の取組を行っていきながら、さらなる製品の環境性能の向上を検討していく。

7. 次年度の環境目標と環境活動計画

次年度の環境目標は、5項に示した中間計画を引き継ぎ、各目標値年1%減の方針を維持します。
また、環境活動計画は、6項の各項目に示した活動を推進します。

8. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、及び車両・輸送関係ですが、これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。
また訴訟に関しては過去5年間ありません。

9. 代表者による評価と見直し

弊社では昨年社外要因による製造車両の大幅な減少に見舞われましたが、それも徐々に回復し、久しぶりに常態にちかい製造環境を取り戻した1年になりました。

弊社の事業環境では、昨年と比較して製造台数が大幅に回復しましたが、環境活動や社員の環境意識の向上などにより、CO₂排出量、電力消費量や廃棄物の削減が実現できました。次年度以降も着実な活動により、より一層の削減成果に結けたいと考えております。